

<全体分析>

試験時間 80 分

<p><b>解答形式</b>                  選択式・記述式・論述式</p> <p><b>分量・難易 (前年比較)</b>                  分量 (減少・やや減少・<b>変化なし</b>・やや増加・増加)                  難易 (易化・<b>やや易化</b>・変化なし・やや難化・難化)</p> <p>大問 3 題で、問題の分量は解答個数でみると 50 と昨年度の 49 と同程度である。I のメッシュマップの読み取りのように時間を要する問題や細かい知識を問う問題も一部みられたが、教科書に準拠したレベルの問題も多く、全体的な難易は昨年度よりはやや易しい。</p> <p><b>出題の特徴や昨年との変更点</b>                  リード文を冒頭に掲げ、空欄補充や単答式 (選択式・記述式) で地名や用語を問う問題が中心だが、論述式も出題される。例年、どの大問にも図表が使用される。主に地図やグラフ、統計表が利用されているが、複雑なものは少ない。地形図の読図問題は毎年全 5 日程のうち 1~2 日程で出題されている (どの日程で出題されるかは、年度により異なる)。</p> <p><b>その他トピックス</b>                  他日程では新課程を意識した問いがみられた。</p>
--

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択式 記述式	離島の過疎問題	リード文・メッシュマップ・3 次元地図使用。佐渡島を題材に高齢化や過疎化の問題、観光資源を活かした地方創生のあり方について扱われた。[2] のトキは細かく、[3] の日本海の離島の経度判定は難しい。[4] のメッシュマップの計算や読み取りなど時間を要する問題もあり、全体的な難易はやや難である。	やや難
II	選択式 記述式 論述式	世界の森林	リード文・統計表・グラフ・地図などを使用。気候・植生・土壌や環境問題に関する空欄補充、各国の森林面積割合や木材生産、ラニーニャ現象、ブラジルの森林破壊、大豆の生産量、永久凍土地帯で高床式の建物がみられる理由 (論述)、日本の木材供給と森林の種類などが問われた。空欄補充や統計判定は標準レベルで、論述内容も入試定番のものであった。	標準
III	選択式 記述式	世界の人口	リード文・統計表使用。リード文をもとに、世界人口の推移や人口動態、1 億人以上の国、都市人口率などが問われた。世界人口の推移はやや細かい数値が問われたが、人口爆発やプライメートシティなどの用語、人口上位国の国名など、平易な問いも多かった。	やや易

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

まずはテキストや参考書を使って、系統地理分野、地誌分野ともにバランス良く学習し、基本的な知識・理解の定着を図ろう。その際、本大学で出題が多い用語や地名を問う問題、農業、鉱工業、人口、都市などに関する基本統計を使った問題に対応するため、教科書、地図帳、統計集を併用した学習が必須である。また、過去問などの問題演習にも取り組もう。年度によっては地形図読図や論述式問題も出題されるため、過去問演習を通じてできるだけ多くの地形図や論述問題に触れるようにしよう。どちらも経験の積み重ねが重要である。